

地方出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

よみがえる日本人のふるさと

『澤田久夫写真集 奥三河物語』

文・岩月 正直

先ごろ刊行した『澤田久夫写真集 奥三河物語』は、今からおよそ70年前、愛知県奥三河地方にある小さな高原の村の何気ない日常生活を記録した写真で構成されています。

この写真を撮影した澤田久夫は、明治38年、愛知県北設楽郡名倉村(現設楽町)に生まれ、若い頃は東京に出て謄写版アートの腕を磨いたこともありましたが、結核を患い、ふるさとに戻って療養をしながら教育者となり、ここを生涯の研究フィールドとした郷土史家です。

地域の歴史書である『三州名倉』や『北設楽郡史』など数多くの著作を残し、考古学研究、古文書の読解、城館跡調査にいたるまでユニークな視点で次々と地域史を発掘し、その成果を人々にわかりやすく伝えることに情熱を注ぎました。

■ 消えゆくものへのまなざし

昭和14年頃、若い日の澤田は、ガラス乾板のカメラを手に写真撮影を始めました。大型カメラ1台が家1軒と同じ価値をもった時代ですが、そんな高価なカメラを買ってまでありふれた光景を写そうと思いついたのは、日中戦争の勃発で都会ばかりか村の暮らしまで変容し始め、習俗のような形に残らないものは真っ先に消えてゆくにちがいないと感じたからです。仕事に励み、家族とくつろぐ、いわば日々の生活風景から、農作業の一部始終、村巡りの行商人、子どもたちの表情まで。当時としては何の変哲もない光景が、一枚また一枚と、その非凡なまなざしで写し撮られていきました。

澤田のこうした消えゆくものへの愛惜と記録の集大成ともいべき活動が、現

在も設楽町に営まれている「奥三河郷土館」の創設でした。村じゅうを隅々まで巡って、民家の屋根裏に眠る江戸時代の行灯、裁縫道具や鍋釜、看板、箸や食器にいたるまでありとあらゆる民具を収集し、村人の生活記録を丸ごと博物館にしてみました。

■ 埋もれた評価を問う

考古学、文献史学、民俗学など広い分野で業績をのこし、奥三河のみならず日本における郷土史研究の第一人者でありながら、澤田久夫という名前とその成果は、残念ながらそれに見合う評価を受けていなかったのではないのでしょうか。民俗学者・宮本常一の傑作のひとつ『名倉談義』は、澤田久夫を仲介として名倉村の古老たちを集めて採録された座談会記録ですが、ここで語られた名倉村とはこんな人々がつくる世界です。

日露戦争に出征する兵士を村人が見送るとき、峠の上から万歳で見送ったのはすぐ見えなくなるので、峠から6~7丁も村寄りまで万歳をすることになりました。兵士は峠を上りきるまで、見送る人は兵士が見えなくなるまで互いに手を振り名残りを惜しむことができた記録されています。今回、本書の寄稿者である愛知大学教授・印南敏秀さんが現地を訪れた際、澤田久夫に師事した鈴木富美夫さんから「第二次世界大戦では日露戦争のときよりさらに万歳の位置が村寄りに遠くなった」と伺い、感慨を深

くしたと書いています。

このように村の共同体意識がよく、人々が和気藹々と暮らしていた名倉村というまるやかなコミュニティーを、澤田久夫は写真という記録によって内側からつぶさに表現しているのです。印南さんは「語りに視覚的な説明が加わったことで、名倉の村世界を知る手がかりは格段に深化した」と、澤田久夫の記録を高く評価しています。

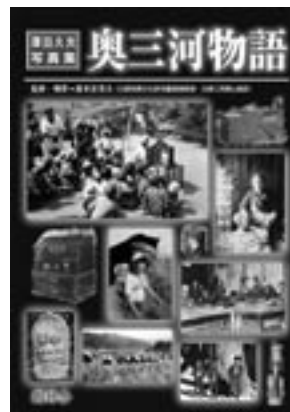
本書では、澤田が撮影した34,000点に及ぶ膨大なカットから300点余りを選び、その背景を鈴木富美夫さんに解説していただき、澤田久夫の人物像と業績を探ります。

■ 絵本で伝えた父の思い

さて、本書には特典で付録がつきます。『ぼくの村』(2冊)、『わたしの村』(2冊)という4冊の絵本で、これは澤田自身が絵と文章でふるさとの心を幼い息子と娘

に語りかけたものです。結核感染の心配からわが子に寄り添えなかった時期、切ない思いをしている子どもたちに、何とかして父の心を伝えたいと、父と子の愛情の証として描き始めました。

父が生涯をかけて伝えようとした村の文化。そのなかには民話や伝説もありました。自分が生まれ育ったふるさ



との昔話を絵本という物語にのこす作業に没頭した澤田久夫は、その思いを美しい絵画世界に創りあげました。病と闘いながらも80歳の長寿をまっとうできた澤田久夫ですが、この4冊の絵本には親子の深い絆が窺い込まれていました。

時代は移っても、親が子にかける愛情は同じでしょう。ただ現今、生まれた土地のお話を財産としてわが子に伝えのこ

そうという親は少ないのではないのでしょうか。わが子が生まれた土地。その土地を愛する心を育む大切さ。身近なものに関心が向き始めたこの頃、この4冊の絵本に接して「わが子とふるさとのつながり」について考えていただきたいと願っています。

■真のエコロジーを知っていた奥三河の先人に学ぶ

冷蔵庫や洗濯機など電化製品の普及していなかった村は、日の当たらない土手に横穴を掘って野菜の貯蔵庫にしたり、はねつるべで汲み上げた清水を使う共同洗濯場を設けたり、自然と上手につきあう工夫に満ちていました。すべてが便利になった現在から見れば何と苦勞の多いことかと思いますが、およそ環境破壊から

はもっとも遠く、自然と親しむ知恵が村の暮らしすべてを覆っていたことを澤田久夫の写真は教えてくれます。

「成り木いじめ」という小正月の行事を記録した写真では、成り木（果樹）を祖父（あるいは父）と男の子が組んで行っていますが、祖父が鉋などの刃物を手にして果樹の根元に当てる「なるか。ならぬか。ならぬなら伐ってしまうぞ」と問いかけると、横に立つ子どもが果樹になり代わって「なります。なります」と応えます。これは、豊作を祈る習俗でありながら、幹に傷をつけてやると養分が根元に下がるのが妨げられ、花芽の付きがよくなり、果実も大きく肥え太るという立派な園芸技術でもありました。かつて里山ではどの家でも行っていました。昭和に入ってしだいに消滅した光景

だそうです。化学薬品で果樹の急成長を促す栽培技術を大量消費社会は要請しますが、自然からいただいた恵みを親子で育む人生の物語は、もうここにはありません。

本書を見終えると、エコロジーとは決して科学ではなく、つましい暮らしに家族や共同体の平安を見出し、自然を畏れ尊重生き方や工夫を子や孫に伝えていくことだと、しみじみ感じます。澤田久夫の写真は、里山の風土と村人が同一の世界で溶け合っているさまを見事にとらえています。これこそ柳田國男が『遠野物語』で発見した自然と人が区別なく同居している物語空間という系譜を継ぐ、第一級の民俗資料といえるでしょう。

(いわつき まさなお・樹林舎取締役)

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『spin 03 一佐野繁次郎装幀図録』 ●林 哲夫編



深沢七郎『言わなければよかったのに日記』（中公文庫）の表紙をご覧になったことがあるだろうか。力強いのか抜けているのか、どちらも思える独特の書き文字、独特の色彩。佐野繁次郎の仕事だ。「sumus」編集人・林哲夫氏の編む文芸誌『spin』第3号の特集は「佐野繁次郎装幀図録」。朱色にサノシゲ文字の表紙が美しい。約50年間の装幀作品300余冊（うち200冊ほどはカ

ラー）掲載の巻頭24ページは圧巻だ。第2特集、2007年秋に惜しまれつつも閉店した神保町「書肆アクセス」元店主・畠中理恵子さんと近代ナリコさんによる「本と女の子の本音？」トークショウの再録も必読だ。

◆1260円・A5判・112頁・みずのわ出版・兵庫・2008/3刊・ISBN978-4-944173-55-6

『北海道の歴史がわかる本』 ●桑原真人・川上淳著



①原始・古代から近・現代までの出来事を時系列的に構成 ②一般的な事実をそのまま並べず、読者の興味をひくようなトピックを取り入れる ③対象読者は幅広く、中学生の副読本的な役割を持ちながら、大人の知的好奇心を刺激するものとする。

本書は編集部これらの難しい要求に応えた新スタイルの歴史読本。石器時代から近・現代まで

約3万年にわたる北海道史を52のトピックで紹介。そのためどこからでも読み始められることも特徴的。北海道の歴史というと、近代以降の「開拓の歴史」に凝縮されがちだが、アイヌ文化など、もっと長く深い足跡がある。北海道史の入門書としてはもちろん、学び直しにも最適の一冊。

◆1575円・四六判・367頁・亜璃西・北海道・2008/3刊・ISBN978-4-900541-75-7

『中国低層訪談録 一インタビュー どん底の世界』 ●リャオ・イウ著



著者は1958年に四川省に生まれ、幼年期は文革による学業中断、高校時代は反動詩歌で警告処分、89年の流血の天安門事件を批判して4年間に及ぶ投獄と、半生を自由と弾圧の狭間で生きてきた。出獄後は職に就けず、投獄中に僧侶から学んだ簞の芸を売って生計を立てている。本書はそうした折に会った浮浪児、同性愛者、麻薬中毒者、人買い、老紅衛兵、冤罪農民といった最下層

の無告の民の本心を聞き取り記録したものであるが、2001年に出版されると忽ち発禁となった。全体を貫くものは、時にユーモアを交えた暖かい眼差しとヒューマニズムであり、決して声高に主義主張していないところに心打たれる。

◆4830円・A5判・404頁・中国書店・福岡・2008/5刊・ISBN978-4-904213-00-1

売行良好書

期間：2008年5月16日～6月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『欧米人の見た開国期日本』2625円・風響社 (2)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (3)『驚きの手話「パ」「ボ」翻訳』2625円・星湖舎 (4)『いまなぜ精神分析なのか』2520円・洛北出版 (5)『目でみるブラジル日本移民の百年』2000円・風響社 (6)『トモニイコウ。』1500円・アートヴィレッジ (7)『北摂里山散策ガイドブック』819円・北星社 (8)『新版 休みの日には、コーヒーを淹れよう。』1680円・書肆侃侃房 (9)『自閉症の子どもたちの生活を支える』1575円・筒井書房 (10)『おとうさん』1365円・瑞雲舎 (11)『愛してるよ カズ』1680円・長崎文献社 (12)『熊本城のかたち』2100円・弦書房 (13)『自然農・栽培の手引き』2100円・南方新社



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『東京かわら版 6月号』420円・東京かわら版 (2)『よみがえる熊本城』1260円・碧水社 (3)『猫の時間割』924円・画房ルル出版部 (4)『モツ煮狂い 第2集』504円・平成鳥有堂 (5)『六十里越街道』1680円・無明舎出版 (6)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社 (7)『調査されるといふ迷惑』1050円・みずのわ出版 (8)『とほ2008-2009』420円・とほネットワーク旅人宿の会 (9)『決戦—豊島一族と太田道灌の闘い』1800円・風早書林 (10)『薩薩辞典』1680円・南方新社

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『日々 12』735円・アトリエ・ヴィ (2)『マファルダ2』1680円・エレファント パブリッシング (3)『EYES』2310円・赤々舎 (4)『散歩もの』1155円・フリースタイル (5)『野宿野郎 5号』500円・野宿野郎編集部 (6)『hao Vol. 15』1050円・Ricochet (リコシェ) (7)『モツ煮狂い 第2号』504円・平成鳥有堂 (8)『辺境の旅はゾウにかぎる』1575円・本の雑誌社 (9)『photographers' gallery press no. 7』2520円・Ricochet (リコシェ) (10)『死者のゆくえ』2940円・岩田書院

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★

▼熊本築城400年

加藤清正によって慶長12年(1607年)に築城され、築城400年を機に西南戦争で焼失した本丸御殿が復元された熊本城は、昨年1月から今年5月まで築城400年祭が開催されてきました。それに関連する本が続けて出版され、好評を博しています。弦書房『熊本城のかたち』(2100円)は、熊本城の石垣から天守閣まで、たくさんのモノクローム写真で構成された写真集。碧水社『決定版よみがえる熊本城』(1260円)は絵図と写真、歴史資料、年表、コラムなどによって詳細に熊本城を案内する完全ガイド本。熊本日日新聞社『フォトグラフ熊本城』(1470円)は本丸御殿復元完成記念で刊行された写真集で、各写真の解説は日本語と英語併記です。8月には郷土出版社『定本 熊本城』(14000円)が刊行される予定です。

▼『谷根千』フェア

来年休刊を決めている地域タウン誌『谷中・根津・千駄木』のフェアが、7月1日からジュンク堂書店池袋店1Fで開催される予定です。10日には『谷根千』の森まゆみさんと書肆アクセスの店長だった畠中理恵子さん、『衍書月刊』編集長の田村治芳さんらによるトークセッションが行われる予定です。

※前号のこの欄で『文学会新人賞』となっていたのは『文学界新人賞』の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

